

「全社員が自身の本業に集中できる環境づくり」を目指して—— 請求書業務の効率化だけで終わらない クックパッドが挑む経理業務改革とは

「誰もが本業に集中し、自社のプロダクトの発展に寄与できる環境を作る」。

クックパッド株式会社の経理部門は、この思いを胸に、会計業務のデジタル化を進めてきた。

だが、請求書の処理および一元管理については、大きな課題を抱えていたという。

そこで経理部長・姫嶋理恵さんはBill Oneを導入し、課題の解決とともに月次決算の早期化も実現。

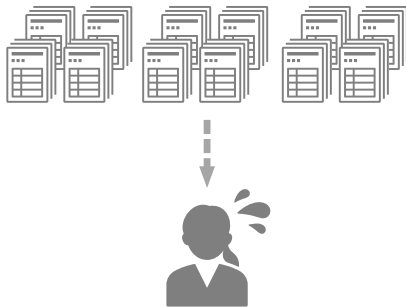
Bill Oneを選んだ決め手や実感しているメリット、更なる経理業務改革への展望を伺った。



クックパッドが Bill One に期待したこと

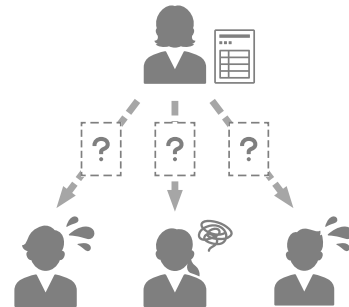
クックパッドが抱えていた請求書にまつわる課題

受領数の増加に伴う
管理の煩雑化、業務負担の増大



誰が、どんな請求書を何枚持っているか
経理が把握しづらい状況

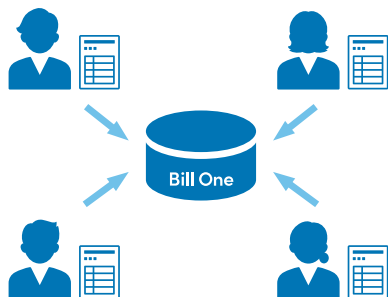
異動や退職時の引き継ぎ不足による
担当者の不透明化



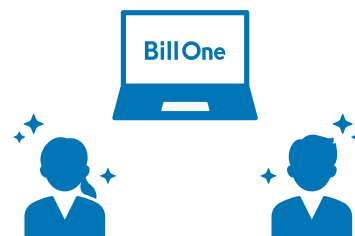
処理されず
宙に浮いたままの請求書が発生

Bill One 導入のねらい

請求書の所有者判別機能で
個々の受領状況をタイムリーに把握し
未処理の請求書をゼロに



経理部と各事業部
どちらも使いやすいUI/UXで
両者ともに請求書業務の負担を軽減



請求書を適切に管理し、業務をさらに効率化するため Bill One の導入を決定

「全社員が自身の本業に集中できる環境づくり」のためデジタル化を推進。「債務管理」が障壁だった

— まずは社内における姫嶋さんの役割を教えてください。

クックパッド株式会社（以下、クックパッド）は「毎日の料理を楽しむに作る」をミッションに掲げ、料理レシピ投稿・検索サービス「クックパッド」をはじめ、さまざまなプロダクトを展開しています。

私は当社の経理部長として、全社員が自身の最も向き合うべき業務に集中し、プロダクトの発展に寄与できるような環境をつくるために、経理業務の効率化を推進してきました。

— 姫嶋さんが目指す環境づくりについて、もう少し詳しく教えてください。

企業として成長していくためには、ユーザーに対してより大きなインパクトを与えるプロダクトを提供し続けなければなりません。ですから経理以外の、特にプロダクトの開発に携わるメンバーには、できる限り本業に集中し、熱狂しながらイノベーションを生み出してほしいと考えています。しかし、例えば立替経費の申請や、請求書の受領、確認、提出といった経理にまつわる作業は、時にメンバーの集中をそいでしまうものです。経営上、外せない業務ではあるものの、どうしても手間と時間がかかってしまいます。

そこで、私たち経理部門は、社員の対応が必要な経理業務を可能な限り効率化していくことで、「全社員が本業に集中できる環境づくり」に貢献しようとしています。

— 具体的には、どのような効率化に取り組まれてきたのでしょうか。

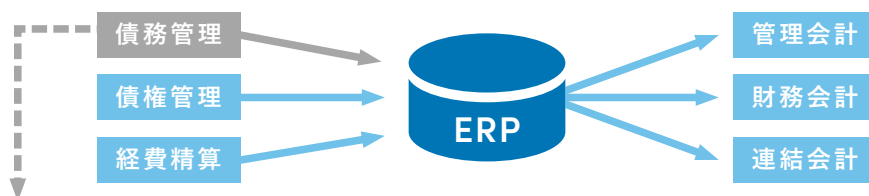
私が入社した2017年以降、さまざまな業務プロセスを積極的にアウトソーシングし、デジタル化・自動化を進めてきました。私たちは、債務管理、債権管理、経費精算、管理会計、財務会計、連結会計という6つの領域を経理業務の全体像として捉えており、この中心にERP（各業務におけるデータの一元管理を目的とした統合基幹システム）を据えています。このうち、経費精算や会計関連の業務に関しては、システムの導入によって業務が滞りなく進むようになり、デジタル化も順調に浸透していました。

— 順風満帆に思えますが、課題はあったのでしょうか。

業務領域の中でも、債務管理には当時から課題感を抱いていました。特にネックだったのが、受領した請求書の処理と管理についてです。当社では、発注した本人が責任を持って請求書を受け取り、経理に支払いを依頼するという体制をとっています。ただ、事業の拡大に比例し、人によっては新しい支払先がどんどん増える場合もあります。加えて、組織改変に伴う人事異動も多く、担当者の変更が高頻度で発生します。

このような状態ですと、まず、個々の管理が煩雑化して負担が増大する上に、経理としても、誰がどんな請求書をどのくらい所持しているのか、把握しづらくなってしまいます。

Bill One 導入前の経理体制



会計システム導入によりデジタル化が順調に進むも、「請求書の処理」に課題あり

Bill Oneの導入で請求書業務が効率化し 社内から「楽になった」の声が相次ぐ

— 請求書の受領が個人単位だと、管理が難しいですよね。

はい。加えて、例えば引き継ぎが不十分であったために担当者が不透明化してしまうと、請求書が会社に届いても処理されず、宙に浮いたままになる可能性も生じます。

請求書の対応が遅れると取引先との信用問題にも発展し得ますし、当月の決算に反映すべき金額が漏れてしまうリスクもあります。この課題は優先度を上げて解決すべきと考え、情報収集を続けていました。

— そんな中、2021年頃にサービス提供を開始したばかりのBill Oneを導入いただいたのですね。

はい。今でこそさまざまな請求書の受領サービスがありますが、当時、Bill Oneには唯一、所有者判別機能があり、届いた請求書が誰宛のものなのかが分かるという特長がありました。個々の受領状況をタイムリーに把握できるという点において、導入の大きな決め手の1つとなりました。

また、検討の過程で営業の担当者や、経理部出身のBill One開発者とお話する中で、Bill Oneは経理部と各事業部、どちらの目線も取り入れたUI/UX設計であると感じました。両者の請求書にまつわる負担を軽減するとともに、業務の効率化にもつながると信じ、導入を決定しました。

結果的に、この決断は大正解でした。今ではBill Oneを導入したことによるメリットを、大きく分けて3つ感じています。

— Bill Oneがもたらしたメリットを詳しく教えてください。

1つ目は、請求書単位で担当者スピーディーなやりとりができるようになったことです。Bill Oneに届いた請求書をリアルタイムで追えるので、誰が、どれだけ所持しているのかを把握した上で、担当者と直接連絡を取ることができます。コミュニケーションにかかる負担も軽くなりました。

2つ目は、すべての請求書の処理ステータスが可視化され、提出漏れや行方不明を防止できるようになったことです。Bill One上で所有者情報はもちろん、開封状況や支払いに必要な回覧状況まで一目で分かるため、経理部も担当者もスムーズに状況確認ができます。処理が止まってしまっている人がいれば、すぐにアナウンスができますし、紙の請求書が袖机の中で眠っている、というような問題もなくなりました。

3つ目は、経理部も各事業部も請求書業務にかかる負担が減り、プロダクトと向き合う時間を増やせたことです。導入の決め手にもなった部分ですが、Bill OneはUI/UXが誰にとっても分かりやすく、直感的な操作が可能です。導入後に行ったのは、社内ツール上で専用の質問チャンネルを設置したのみでしたが、現場担当者にも自然と浸透していきました。実際、社内からも「業務が楽になった」「対応漏れが減った」「担当者の変更が簡単で助かる」という声が相次いでいます。物理的にも精神的にも負担が軽減されたぶん、プロダクト開発に向き合う時間を多く捻出でき、理想の状態に近づいていると感じます。

Bill Oneがもたらした大きなメリット

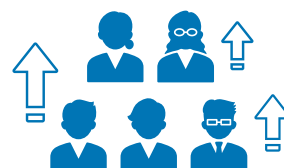
担当者で請求書単位でのスピーディーなやり取りが可能に



個々の処理ステータスを可視化し提出漏れや行方不明を防止



経理部、各事業部ともに負担が減りプロダクトと向き合う時間が増加



「債権管理」の領域も Bill One に一元化。 クックパッドの経理業務改革は続く

— Bill One は経理担当のみならず、現場のユーザーにも歓迎され、請求書業務の効率化が進んだのですね。

その通りです。さらに、Bill One は月次決算の早期化もこなえてくれました。各担当者宛に届いた請求書を、経理部がシステム上ですぐに見ることができるようになったことで、情報をキャッチするのが導入前より数日早くなり、概算計上の実施スピードが速まりました。月次決算の報告や四半期決算を進める上で漏らしてはいけない、金額の大きな請求書の内容も早期に得られるようになり、大変助かっています。

— クックパッド様には、法人カードである Bill One ビジネスカードや請求書発行機能もご利用いただいていますね。

はい。現在は請求書の受領だけにとどまらず、法人カード決済や、請求書の発行という債権管理に当たる部分も Bill One でカバーしようとしています。直近では、月に100件単位で発生する法人カード決済の精算フローにおける課題を解決するために、Bill One ビジネスカードの導入を決定しました。加えて、インボイス制度に対応する適格請求書の発行を正確に行うため、請求書発行機能も導入し、運用を開始しています。それまでは事業部ごとに異なるツールを使って請求書を作成していたので、統一したいという思いもありました。今後も Bill One を活用し、経理業務の一元化に注力していきたいと思っています。



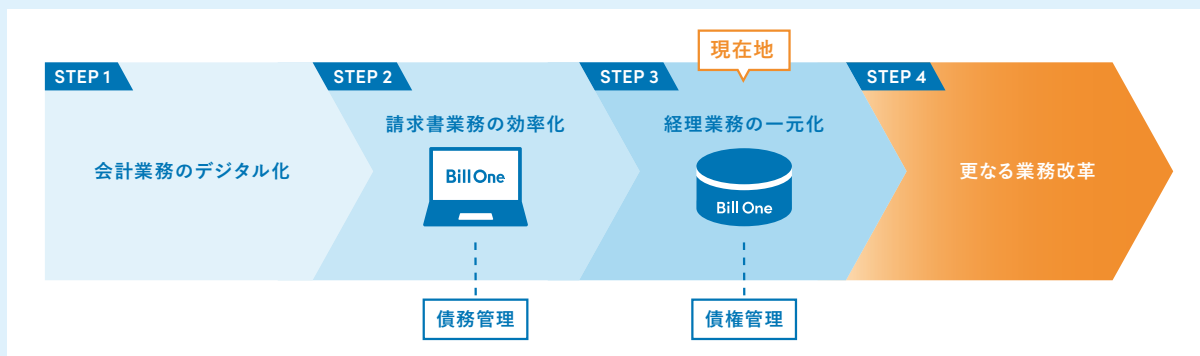
お話を伺った、クックパッド株式会社 経理部長の姫嶋理恵さん

— 最後に、姫嶋さんが今後の Bill One に期待することや、クックパッドが描く展望を教えてください。

Bill One の導入から数年が経ちますが、ユーザーの抱える課題やニーズをいち早く読み取り、新機能などにしっかりと反映しながらプロダクトそのものが進化していると感じ、信頼しています。また、今後も進化し続けてもらうため、私自身も意見や要望を伝えていくことが重要だと思っています。

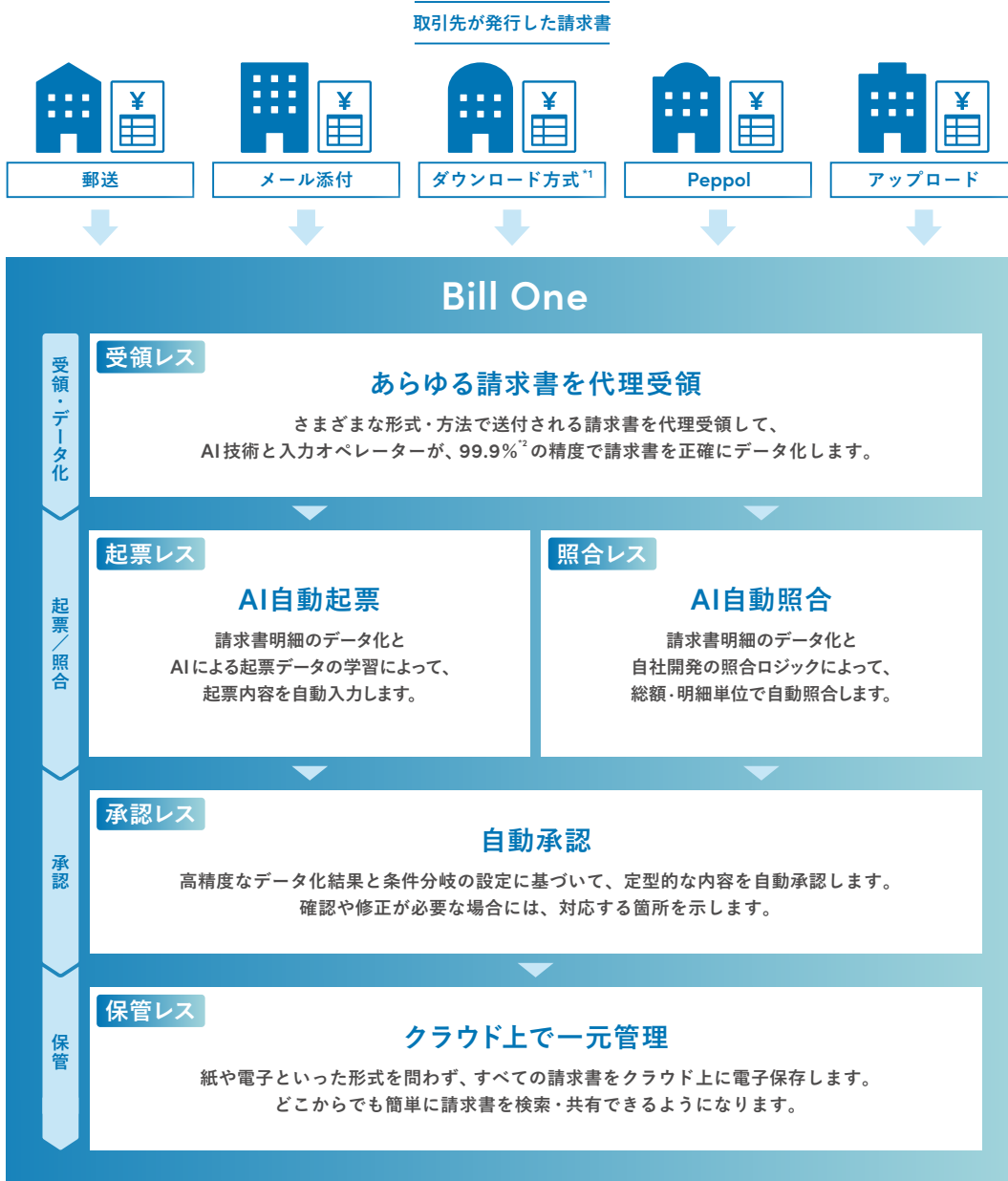
クックパッドは、会計業務のデジタル化に始まり、請求書業務の効率化、経理業務の一元化を進めてきました。しかし、まだまだ道半ばです。「全社員が本業に集中できる環境づくり」を実現すべく、Bill One が私たちの更なる業務改革に伴走していってくれることを大いに期待しています。

クックパッドが歩んできた経理業務改革の道のり



「なくせる」をつくり、全社の働き方を変える Bill One 請求書受領

あらゆる請求書を代理受領し、AI技術とテクノロジーで自動化を実現することで、
請求書業務のプロセスに「なくせる」をつくります。
経理部門だけでなく、全社の働き方を変えていく、これまでにないクラウド請求書受領サービスです。



*1 請求書ダウンロードサイトの仕様や変更、メンテナンスなどにより受領できない場合があります

*2 Sansan株式会社が規定する条件を満たした場合のデータ化精度

Bill One
powered by Sansan

お問い合わせ | デモ依頼やお見積りについては、お気軽にお問い合わせください

bill-one@sansan.com

0800-100-9933

https://bill-one.com/ap/

Sansan株式会社 [本社] 〒150-6228 東京都渋谷区桜丘町1-1 渋谷サクラステージ28F

※ 本資料は2026年1月に作成されました。掲載されている内容は作成時点での情報です。

※ 本資料の記事・写真等の無断転載、複写、複製を禁じます。

© Sansan, Inc.